

びばい未来交響プラン（第6期美唄市総合計画）（素案） に対する意見と市の考え方

パブリックコメント手続による意見提出 ～ 7件（6名・1団体）

区分	意見の要旨	市の考え方
基本構想・基本計画	<p>1 平和に関する行政が欠落している 市が設定している1から6までの柱については、私たちが作成した政策とほぼ同じ内容のものとなっていますが、平和に関する行政が欠落しています。市は、1985年（昭和60年）に「核兵器廃絶平和都市宣言」をしました。2007年3月には「美唄市まちづくり基本条例」を制定し、まちづくりの理念として、「人権の尊重」「自然との共生」とともに「平和の希求」を掲げています。翌年の2008年には、平和市長会議に加盟しました。これらの宣言や理念を実現するためにも、平和に関する行政を具体化すべきです。この柱の中では、「2人と文化をはぐくみ交流が広がるまち」で取り上げたらどうでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおりと考えるので、平和施策について追加記載します。</p>
基本構想・基本計画	<p>2 6つの柱を並べた考え方が分からない 1から6まで6つの柱が並べられていますが、この柱はどのような考え方で並べられているのでしょうか、良く分かりません。並べ方は、いかのようにするべきではないでしょうか。 市政の方向、自治・まちづくりをどのようにやっていくか 市民が一番関心を持っている社会保障・福祉をどうしていくのか（地方自治法第1条の2は、住民の福祉の増進を図ることを基本としている） 地域経済、産業・雇用をどうしていくのか 公共事業、環境、防災をどうして行くのか 教育・ひとづくり、文化・スポーツ活動、平和をどうしていくのか 子育てと男女平等・女性の地位向上をどうしていくのか このような考え方に立つと、市の掲げる6つの柱は、「6 4 1 3 5 2」のような並べ方が望ましいということになります。</p>	<p>基本構想（素案）の6つの柱については、その順番に関して様々な考え方があるかと思いますが、今回は、まちの活力づくりに取り組む必要があるという美唄未来会議からの提言に基づき、組み立てましたので、これを尊重したいと考えています。</p>

<p>基本構想・基本計画</p>	<p>3 「協働のまちづくり」は、憲法に基づいて、住民が主権者とし自主的・自発的に参加するまちづくりとする</p> <p>「市民と行政との協働が必要だ」ということには異論はありませんが、市が進めている「協働のまちづくり」は上からの目線の押し付け自治・義務的自治であり、憲法に基づく住民が主権者として自主的・自発的に参加するまちづくりになっていません。</p> <p>「新たな自治」とか「新しい公共」という言葉で、住民自治のあり方が問われていますが、これらの言葉はそもそも地方行革の推進を目的として設定された概念です。自治体のリストラを推進するための道具または指導理念として打ち出されたのです。これらの大きな特徴として、第一は、地方自治体が「公共団体」というよりは、何よりも一つの「経営体」（地域経営体）として把握されていることです。「公共団体」に問われている課題は「公共性」の追求ですが、「経営体」のそれは「効率性」です。「効率性」が主になって、「公共性」が著しく減退するようなことがあってはなりません。第二は、自治体行政はその機能を「地域経営体」の「戦略本部」に特化し、「実働部隊」は行政の外部にアウトソーシングされることです。つまり、地域住民は「協働のまちづくり」の名の下に地域経営目的の目的のために動員されることとなります。これを私たちは、上からの目線の押し付け自治・義務的自治だといっているのです。</p> <p>これら「協働のまちづくり」については、簡単に論じられることでもありませんので、「美唄市まちづくり基本条例」の見直しの中で改めて議論していきたいと思えます。</p>	<p>協働のまちづくりは、ご意見のとおり、美唄市まちづくり基本条例で基本原則としておりますので、総合計画についてもこの考えに基づき進めることとしております。</p> <p>今回の総合計画を進める上で重要な点は、財政の健全化を実現すると同時に、創意工夫によりまちの財産である様々な地域資源を最大限活用してまちの活力づくりを継続していくことであると考えています。</p> <p>そのためには、市民の皆さんの自発的な参画意欲を前提とした協働のまちづくりが不可欠ですので、今後とも市民の皆さんと力を合わせて活力ある住みよいまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>
<p>基本計画</p>	<p>4 一歩踏み込んで具体化・実行する</p> <p>基本構想は、基本計画、事務事業インデックスと具体化されていきますが、具体化・実行となると毎年同じような水準に止まっているところがあります。「市の計画は総合的に作成されてまずまずの出来だが、その成果となると例年並みに止まっている」厳しい意見も聞かれます。なすべき課題を明確にする総合計画の作成は重要ですが、その課題を今までよりも一歩踏み込んで具体化・実行していく必要があります。従来やり方で進めるのではなく、創意工夫を凝らして質的に高めることが重要です。市民、議会、行政が、目的意識的に一歩踏み込んで現状を変革することで、前進が得られると思えます。</p>	<p>市では、これまでも成果を重視した仕事の仕方を心がけてきましたが、改めて、時代状況や環境の変化を見据えながら、PDCAサイクル（計画 実施 評価 見直しの繰り返し）を徹底し、市民の皆さんに成果を実感していただけるような、まちづくりに努めます。</p>

基本構想	<p>びばい未来交響プラン基本構想（素案）では、我が街のあるべき姿について基本構想として述べられております。今後の地域振興を発展・交流させるためには自力（美唄市）だけに頼るのではなく、広域的な連携協働、そしてそれらに対するブランディングが必要になると考えられます。空知という広域的な特色を活かして基本構想に取り入れて頂きたいです。</p>	<p>ご意見のとおり、広域的な課題に対して連携して取り組んでいくことが必要であると考えるので、基本構想に追加記載します。</p>
基本計画	<p>また、前期基本計画（素案）では、上記の考え方にに基づきながら広域的な取組みを具現化し、広域的な医療連携（救急医療体制等）の確立や民泊を含めたグリーンツーリズムの推進、更には食や地域資源を空知ブランドとして市町村の垣根を越えた事業展開が必要と考えられますのでご検討下さい。</p>	<p>ご意見のとおり、広域的な課題に対して連携して取り組んでいくことが必要であると考えるので、前期基本計画に追加記載します。</p>
基本計画	<p>新たに商品化された特産品数の目標値が5年で3商品は少なすぎると思います。 市民や、特に小中高校生のアイデアが出されるようなシステムを作り、市内の食品事業者が商品開発に取り組みやすい環境を作ってほしい。</p>	<p>この目標値は、商品化だけではなく、それが商品として定着する段階に至ったものを成果としてとらえて設定したもので、商品として開発・販売され、発売開始1年後も継続して販売され定着している商品の数について、最低限3を目標としています。 商品開発や定着には多くのアイデアや試作等の取組みが必要なことから、それらを促す仕組みづくりに努めるとともに、市としても支援し、1つでも多くの特産品を定着させていきたいと考えています。</p>
基本計画	<p>アンテナショップの今後の利用の仕方について、明記してほしい。（場所、規模、販売品目など）</p>	<p>アンテナショップは、平成21年度から3年間の予定で開設しており、3年間経過した段階で、利用状況や売上げ状況を検証し、その後の運営のしかたなどを関係団体の皆さんと協議・調整することとしています。</p>
基本計画	<p>閉校になった校舎の有効利用について、明記してほしい。</p>	<p>統合により廃校となった校舎等の利用方法については、個別に検討していますので、それぞれの方向性が明確になった時点で、計画に追加します。</p>
基本計画	<p>市立病院に関して 1 病院の勤務者は接遇に注意してほしいと思います。 2 玄関の所のカウンターを活用された方が良いのでは。職員の方々が、毎日交代でも良いのではないのでしょうか。来院者は案内係の方がいる事で、何か不明な事があってもすぐに聞くことが出来安心すると思います。 3 看護師不足改善には、看護助手を（パートでも）配置し看護士の雑用をしてもらうことはいかがでしょうか。</p>	<p>患者の皆さんに対する病院職員の接遇については、これまでも院内における研修会の実施や外部で開催される講習・研修会等への参加など、その機会の充実に取り組んできております。安心して治療を受けていただく上で、接遇は重要な要素であると認識していることから、引き続き患者の皆さんと心の通う接遇に努めます。 正面玄関のカウンターにおける案内については、平成15年から「病院案内ボランティア」の皆様のご協力により、午前中の混雑時に実施しているところです。 また、看護助手についてであります。5階療養病床及び3階の一般病床に配置し、看護士の補助的業務に当たっています。</p>

基本計画	<p>美唄市のまちづくりについて 美唄高校と美唄工業高校の合併、専修短期大学の学生募集停止など美唄の教育機関が縮小していくのは問題だ。もし学校施設が廃校後に利用できる状態であるならば、学校の施設を市民や観光客が楽しんで利用できるようにしてほしい。アルテピアッツァ美唄のような芸術広場を、学校跡地に設置し美唄全体を芸術のまちとして売り出せばいいのだが、現実的に考えると市民の交流の場もしくは学校に通っていた人たちが懐かしさを感じることができるような利用をしてほしい。</p> <p>市民会館でのまちづくり懇談会で害獣駆除の成果を聞かせてもらった。その中でキツネがエキノコックスの原因である生活害獣として42匹駆除されたことを知った。キツネは北海道を代表する動物で、道外の観光客も親しみをもちやすい。そこでキツネのマスコットを美唄に導入するのはどうだろうか。キツネはあくまでも一例であるが美唄市のまちおこしとして市民のシンボルがあれば一体感も高まるはずだ。美唄のマスコットにはマガンのマミーちゃんがいるが、これからの美唄交響プランのシンボルとなるご当地キャラクターを導入してみてもどうか。</p> <p>参考までに現在ではエキノコックス対策として虫下しを入れたエサをキツネの生息地に散布することによって、寄生虫だけを根絶することができる。</p>	<p>統合により廃校となった校舎等の利用方法については、個別に検討していますので、それぞれの方向性が明確になった時点で、計画に追加します。</p> <p>また、市のキャラクターに関しましては、市民の皆さんに親しまれているマミーちゃんを今後とも活用していきたいと考えています。</p> <p>エキノコックス対策については、駆虫薬の散布により感染率は低下しますが、駆虫薬を摂取しないキツネや再感染を起こすキツネ、非散布地域から侵入してくるキツネが汚染源となって感染固体が存続するため、感染率をゼロにすることはできないとされており、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
基本構想	<p>分野別の整合性をはかるため項目を入れ替えた方がより良いと思います。</p> <p>基本構想 都市像を実現するための6つの柱 1 人と情報が行き交いにぎわいが生まれるまちに 公共交通機関の充実 が盛り込まれています。これを5 安全で安心して住めるまち に位置付けるべきだと思います。</p> <p>同じく 5 安全で安心して住めるまち 雇用の場の確保と働きやすい環境づくり は1 人と情報が行き交いにぎわいが生まれるまち に位置付けるべきだと思います。</p>	<p>基本構想（素案）の6つの柱については、その順番に関して様々な考え方があるかと思いますが、今回は、美唄未来会議からの提言に基づき、組み立てましたので、これを尊重したいと考えています。</p> <p>美唄未来会議では、公共交通については、日常の移動手段の確保とともに交流を促進する観点からもとらえていました。</p> <p>また、雇用対策については、安心して住むための前提として議論されてきました。</p>
基本構想	<p>産業振興の要素が施策項目上弱いと思われる。</p> <p>1 人と情報が行き交いにぎわいが生まれるまちが産業振興も含めた施策項目になっていますが、これでは内容を個別に見ない限り美唄のまちづくりに産業振興があるのか分かりづらいのでは。簡明を計画策定の視点にしているのであれば、例えば、「産業が多様に輝き人と情報が行き交いのあるまちづくり」というように変更した方が如実にわかりやすく感じると思います。</p>	<p>基本構想（素案）の6つの柱については、その表現のしかたに関して様々な考え方があるかと思いますが、今回は、美唄未来会議からの提言に基づき、組み立てましたので、これを尊重したいと考えています。</p>
基本構想	<p>将来展望と重点プロジェクトについて 基本構想は10年先を見据えています。それ以上に15年、20年以上先を見越した観点を持ちダイナミックに美唄を見て行かないと展開が困難だと思います。また事務的事業を実施している時代環境ではないので、よりメリハリのある基本構想を希望します。</p>	<p>今回の総合計画では、将来にわたる少子高齢化の進展を前提として、財政的に厳しい状況が続く中、経済振興を図っていくことにポイントを置き、まちの財産である様々な地域資源を最大限活用してまちの活力づくりを目指すことを重点としています。</p>
基本計画	<p>計画の特色 計画の策定の視点として、市民、企業など多様な主体との連携協働のまちづくり、地域の特性を最大限の活用、投資の選択と集中による効果的なまちづくり、関連施策の総合的な展開などを視点とすることにより重点的なプロジェクトを基本計画に盛り込む素地が出来ると思うのでより効果的な反映されることを希望します。</p>	

基本構想	<p>計画のタイトル 「びばい未来交響プラン」と名称に工夫されていることは理解できますが、この名称では基本構想・計画であることが市民目線では理解できないと思いますので、例えば「市民と一緒に未来に向けて取り組む美唄まちづくりプラン」とより平易である名称が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>計画名については、簡潔で分かりやすいものになるよう考え、未来に向かって力強く美唄の魅力を響かせようという趣旨からこの計画名にしました。 なお、前期基本計画に基づき具体的に実施する市の仕事については、3年ごとに「市民と一緒に行うまちづくりの取組み一覧（事務事業インデックス）」という名称にしています。</p>
基本構想	<p>びばい未来交響プラン（第6期美唄市総合計画）は、立派な計画書ですから、着実に実施されることが望ましいと思います。 上記の美唄総合計画とは別に市立美唄病院の経営改善について意見を申し上げます。</p>	<p>着実な計画の実施に努めます。</p>
市立病院に関する意見	<p>新しい医療事業による市立美唄病院の経営改善について（要旨）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 空知地方全域の住民から親しまれ、頼られるような病院にすること。 2 計画を策定し、産婦人科を設置して充実した診療を行うこと。 3 産婦人科の医師不足は徐々に緩和されると予想される。 4 産官学民の総力体勢で医師確保に努めること。 5 産婦人科の24時間診療を可能にするため、余裕のある医師数が必要であること。 6 新聞、テレビ等のマスコミによるPRに配慮する必要があること。 7 産婦人科の診療業務が順調に推移すれば、住民の安心感や病院収入増が期待できる。 8 出産数の増による国民健康保険会計の支出は原則ないことになる。 9 健康保険から分娩費等が支給されるので、診療費の滞納率は少ないと考えられる。 10 産婦人科の診療業務が軌道に乗るまで一般会計予算の2～3%程度を特別枠で確保し、計画に着手すること。 	<p>現在、市立病院では経営健全化に向けて、平成21年度に市立美唄病院経営健全化計画を策定し、進行管理に努めているところです。 ご意見のありました産婦人科設置については、全国的な医師不足（特に産婦人科医師）から、平成16年に北大病院産婦人科医局のセンター化構想に伴い、医師が砂川市立病院に集約されたため、当院は砂川市立病院産婦人科のサテライト病院となっており、医師の派遣を受け週2回の外来診療を行っているところです。 産婦人科については、これまでもいろいろ検討を加えてきましたが、医師確保に至らなかったところです。 公立病院として安定した医療を維持継続していくために、今後も医師の確保に努めます。</p>